

——社長就任の抱負からお聞きしたい。

「海外経験が長く、今年4月の顧問就任から国内重仮設について全く白紙の状態です。できなかったが、社会の基盤を支える非常に大事な仕事と感じた。社員は真面目かつ誠実であり、顧客や協力企業を非常に大切にしている。これは商売でも不可欠な要素で、私も同様に取り組みたい」

——重仮設業界の印象は。「ゼネコンなどと信頼関係を相互に築いている。よい意味で属人的な信用を大事にしているという印象を持った。丸紅では化学プラントを担当してきたが、共通する部分があり、カルチャーになじみやすいつ感じている」

——需要環境をどのように捉えますか。

「東京五輪関連については業界の仕事はまだ本格的には動いていない。ただ、期限は決まっており本格的に始動すれば、むしろ人手や機材の不足という悩みが出てくるだ

## 新社長インタビュー

ろ。再開発案件なども今後活発になると見られ、重仮設州、名古屋の建築需要が少し増えているが、首都圏を中心とした再開発やインバウンドの3カ年はワンストップさうらう。一方、地方では大阪や九

2020年までは大丈夫と言われているが、首都圏を中心とした再開発やインバウンドの3カ年はワンストップさうらう。一方、地方では大阪や九

ランズシートも非常に綺麗になり礎はできた。16年度から3カ年はワンストップさうらう。一方、地方では大阪や九

の要望が強く、設計・工事会社として鍛えていく必要があると感じている。材工一式受注の拡大に向け、力をつけていきたい。堅調な需要を確実に捕捉していく」

型だが、商社的にはブランドもあつたと思つて成長性が見込める関連して海外における情報面やパーソナル候補との関係深化に取り組みたい」

「女性やシニア層の活用にも加えて外国人の登用も議論を進めている。現場では言葉の問題が出てくることも思つが、

「様々な人材が必要となりそうです」

# 新事業に戦略投資

## コア事業の収益基盤、さらに強化

「継続的成長を」

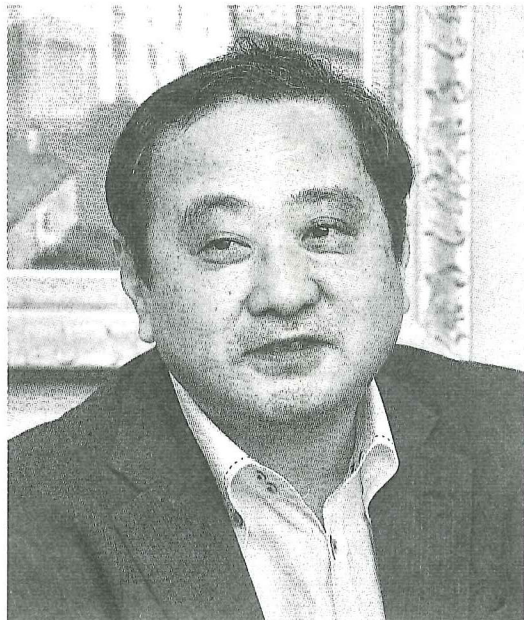
「そのような環境下での事業戦略は。」

「清水教博前社長が丁寧な経営を進め15年度まで5期連続で増収増益を達成した。15年度までの前中期3カ年経営計画のテーマは『成長へ向けた礎の構築』だったが、バ

にもう少し投資していてもよいと思つ。持続的な成長を図ると共に安全対策の推進と労働災害撲滅に注力したい。

新規事業への戦略投資を確実に進めていく。当社の考え方は極めてグリーンフィールド丸紅という同業他社にはない

（村上 倫）



丸紅建材リース

内山 元雄氏

「それは前提にコア事業である重仮設事業の収益基盤をさらに強化していく。ゼネコンからは工事や設計について

「それを前提にコア事業である重仮設事業の収益基盤をさらに強化していく。ゼネコンからは工事や設計について

「それを前提にコア事業である重仮設事業の収益基盤をさらに強化していく。ゼネコンからは工事や設計について

「それを前提にコア事業である重仮設事業の収益基盤をさらに強化していく。ゼネコンからは工事や設計について

「それを前提にコア事業である重仮設事業の収益基盤をさらに強化していく。ゼネコンからは工事や設計について

### プロフィール

39年の商社生活の3分の1を海外で過ごし、85年には家族も含め「テヘラン脱出」を経験した。趣味は「酒と映画と猫と妻」と笑顔。ポリシーは「仕事も楽しく」で「生活の大半を占める仕事の時間がどついたら楽しくなるか気をつけている」と。

内山 元雄氏（うちやま・もとお）77年京都大学法学部卒業、丸紅入社。10年執行役員、プラント・産業機械部門長、13年常務執行役員、欧州・CIS支配人、丸紅欧州会社社長、15年常務執行役員、南米統括、丸紅ブラジル会社社長兼丸紅ウルグアイインターナショナル会社社長、16年4月丸紅建材リース顧問、6月社長就任。1954年5月19日生まれ、62歳、静岡県出身。